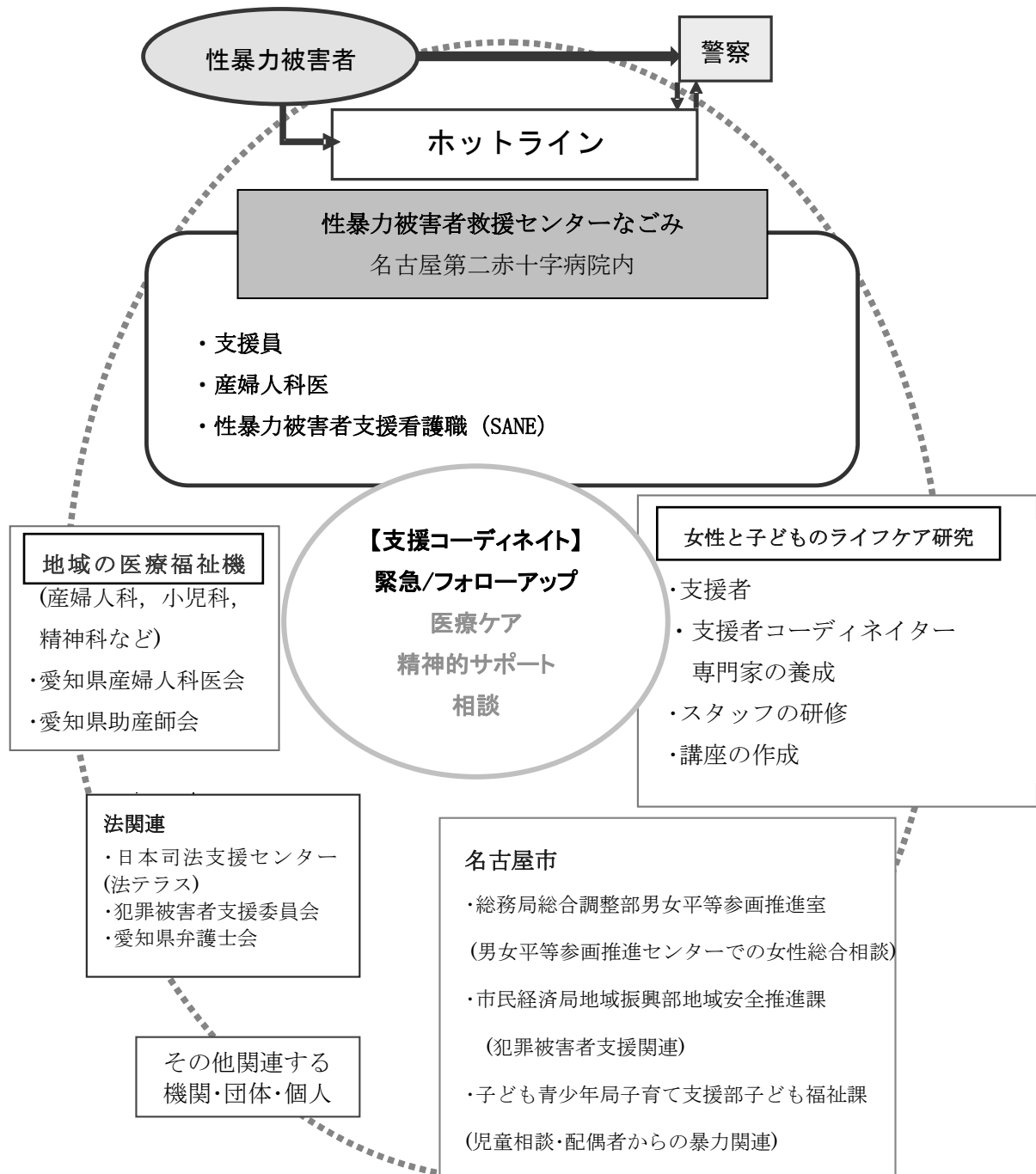


名古屋市

地域との連携による性暴力被害者救援ネットワーク



※上記点線内構成員で準備委員会連絡会議を開催

名古屋市：＜準備委員会連絡会議＞（被害者支援体制の構築・強化）

1 モデル事業実施前の課題

ワンストップ支援センターを開設するにあたり、拠点病院・行政機関・地域の医療福祉機関・NPOなど民間団体アドボケイト・司法機関等、関係機関が多岐にわたることから、関係機関同士の情報共有、情報交換など、被害者支援のための連携協力体制の構築が課題である。

2 モデル事業の内容

「性暴力被害者救援センター日赤なごや」に関わる関係機関・団体の担当者および犯罪被害者等を支援する関係者同士の円滑な関係を構築し、連携を図るために、定期的に、性暴力被害者救援センター日赤なごや開設準備委員会を開催した。

7月、8月、10月、11月、12月の計5回開催

性暴力被害者救援センター日赤なごや 準備委員会メンバー（次頁）

3 モデル事業実施による成果目標（1の課題に対応するもの）

性暴力被害者救援センター日赤なごや開設準備委員会の定期的な開催により、関係機関の連携を密にし、円滑な開設につなげる。

4 実施結果及び成果

モデル事業期間内に第4回～第8回開設準備委員会の計5回を開催

ワンストップ支援センターを設置するために、関係機関関係者による意見交換や情報交換のための準備委員会を開催

- ①7月21日（火） 17：00～18：00 名古屋第二赤十字病院 18名出席
- ②8月18日（火） 15：00～16：00 名古屋第二赤十字病院 15名出席
- ③10月20日（火） 17：00～18：30 名古屋第二赤十字病院 19名出席
- ④11月17日（火） 17：00～19：30 名古屋第二赤十字病院 17名出席
- ⑤12月15日（火） 17：00～18：40 名古屋第二赤十字病院 18名出席

会議では、実施のためのプロトコルの作成、研修の実施計画、支援者の養成、について、毎回熱心な討議が重ねられた。院内の急性おける介入体制についてはイメージできたが、地域の連携については、弁護士会、警察、地域の団体など、実際の活動について今後実施しながら具体的に体制を整えることとなった。

5 モデル事業実施後の課題（現状）

性暴力被害者救援センター日赤なごや開設準備委員会の定期的な開催により、連携が図られ、2016年1月5日開設の運びとなった。今後も引き続き、連絡会議等を適宜開催することにより、支援の現状について共有を図るとともに新たな課題について認識し連携を進めていく必要がある。

所属，氏名	職種，部署など
行政：名古屋市	
	総務局総合調整部男女平等参画推進室 市民経済局地域振興部地域安全推進課 子ども青少年局子育て支援部子ども福祉課
名古屋第二赤十字病院	
石川清 片岡笑美子 加藤紀子 江口美智 野口善令 永田ゆかり 岩佐充二	院長 副院長 産婦人科部長 産科看護師長，助産師， 副院長 救命救急センター長 副看護部長 小児科部長
女性と子どものライフケア 研究所	
長江美代子 石田ユミ 古澤亜矢子 服部希恵	会長 精神看護専門看護師 副会長 臨床心理士／フェミニストカウンセラー 副会長 看護師 精神看護学 副会長 精神看護専門看護師
地域産婦人科医師	
丹羽咲江 加納武夫	医師（咲江レディース院長） 愛知県産婦人科医会 副会長
法医学	
加藤秀章	名古屋市立大学
精神科医	
赤堀薫子	月下香庵 院長
弁護士	
犬飼千絵子 長谷川桂子 粕田陽子	犬飼弁護士事務所 犯罪被害者支援委員会で委員長の経験あり 元検察官
地域連携関連	
近藤東臣 野口靖之 笹原艶子 清水亮	星ヶ丘マタニティクリニック院長 愛知県産婦人科医会 会長 医師 愛知医大 かけこみ女性センターあいち 清水マタニティ相談所 愛知県助産師会 理事
オブザーバー	
加藤治子 高見陽子	大阪ワンストップ SACHICO 大阪ワンストップ SACHICO

名古屋市：二次被害防止のための関係機関向け講座（被害者支援体制の構築・強化）

1. モデル事業実施前の課題

性暴力被害者救援センターを開設する名古屋第二赤十字病院の職員をはじめ被害者と接する可能性のある関係機関職員に向けて、性暴力被害者へ適切な支援を行うため、性暴力被害について知る機会を設ける必要がある。

2. モデル事業の内容

性暴力被害者救援センターを開設する名古屋第二赤十字病院の職員をはじめ関係機関を対象に、二次被害防止の観点からも、より適切な支援を行うためにも、性暴力被害者の特質や性暴力被害特有の問題への理解を深めるための講座（勉強会）を開催する。

テーマ

- ・ 性暴力救援センターとは何か その医療における役割と機能
- ・ 性暴力被害の実態
- ・ 性暴力被害介入における司法医学の視点
- ・ 性暴力被害者の法的支援

3. モデル事業実施による成果目標（1の課題に対応するもの）

病院関係者、各種相談業務に関わる団体に講座に参加してもらい、センターの存在を周知するとともに、性暴力の実態等について理解を促進し、二次被害防止を図ることを目的とする。

期間中、病院スタッフ、医療者（フォレンジックアセスメント）、弁護士対象に3回の研修を実施する。

4. 実施結果及び成果

○ 第1回

日時：7月21日（火）18：00～19：30

会場：名古屋第二赤十字病院

講師：産婦人科医 性暴力救援センターSACHICO 大阪代表 加藤治子

テーマ：性暴力救援センターとは何か その医療における役割と機能 性暴力被害の実態

参加人数：104名：医師14、看護師64、事務職13、その他心理士メディサポ、医療社会事業部など、産婦人科医全員出席

○ 第2回

日時：8月4日（火）18：00～19：30

会場：名古屋第二赤十字病院

講師：山口大学大学院医学系研究科 法医・生体侵襲解析医学分野 准教授 高瀬泉

テーマ：性暴力被害介入における司法医学の視点

参加人数：85名：ほぼ医師と看護師、他検査技師、ソーシャルワーカーなど、産婦人科医全員出席

○ 第3回

日時：9月30日（水）13：30～16：00

会場：愛知県弁護士会館

講師：大阪弁護士会所属 性暴力救援センターSACHICO 運営委員 雪田樹里

テーマ：性暴力被害者の法的支援

参加人数：約50名

参加した弁護士は、女性だけでなく男性も含め幅広く参加していただいた。研修は、裾野を広げる意味では、とても意義があった。



5. モデル事業実施後の課題（現状）

参加した職員に対しては性暴力被害者救援センターの意義や被害者への対応等を知ってもらうことができたが、多くの職員が働く病院において全ての職員に周知ができた訳ではないので、今後も継続的に周知の機会を設けていく必要がある。

名古屋市：支援員研修（被害者支援体制の構築・強化）

1. モデル事業実施前の課題

性犯罪・性暴力被害者の相談対応については、その性質から誰もができるものではなく、被害にあった人に寄り添い、心理的支援・医療支援・法的支援・生活支援を行うために相当程度の知識が必要である。

性暴力被害者救援センター日赤なごやを開設するにあたり、支援員の確保は必須である。

2. モデル事業の内容

性暴力被害者救援センター日赤なごやで働く支援者（アドボケーター）を養成するための研修を実施。下記内容での出前講座を委託し、受講者の育成をはかる。

（１）支援者（アドボケーター）を養成するための出前講座

５日間 11 講座、1 講座 2～3 時間

講義内容

- ① 性暴力救援センターとは何か～その機能と役割
- ② 性暴力被害の実態
- ③ アドボケーター（支援員）としてのスタンス～性暴力とは何か～
- ④ アドボケーター（支援員）としてのスタンス～支援とは何か～
- ⑤ 性暴力被害者の心理～トラウマからの回復に必要なことは～
- ⑥ 性暴力被害者に対する病院での診察とは
- ⑦ 性暴力被害者への法的支援について
- ⑧ 被害者のこれからと人間関係
- ⑨ ケーススタディ…講義内容をふまえたケーススタディ
- ⑩ ロールプレイ…講義内容をふまえたロールプレイ
- ⑪ ケーススタディとロールプレイをとりいれた実習を繰り返す

（２）追加講座

ケース検討 2～3 日間、フォレンジックアセスメント、法医学的視点、性暴力被害者の法的支援について講義を実施

3. モデル事業実施による成果目標（1の課題に対応するもの）

24 時間体制に向けて、目標は 30 名の支援者を確保することを目標として研修を実施した。

4. 実施結果及び成果

アドボケーター養成出前講座を開講

（１）研修内容

日 程		講 義 内 容 (1 講座：120～180 分)	講 師
7/26	①② 午前	～性暴力救援センターとは何か～その機能と役割性暴力被害者への法的支援について	雪田 樹理 性暴力救援センター大阪

			運営委員・弁護士
	③④ 午後	～性暴力被害の実態～SACHICO の 5 年間の活動から見えたもの 性暴力被害者に対する病院での診察とは、	加藤 治子
8 / 9	⑤ 午前	性暴力被害者の心理 ～トラウマからの回復に必要なことは～	久保田 康愛 性暴力救援センター大阪 運営委員・精神科医
	⑥⑦ 午後	被害者のこれからと人間関係	高見 陽子 性暴力救援センター大阪 運営委員・カウンセラー
8 / 23	⑧⑨ 午前	アドボケーター（支援員）としてのスタンス ～支援とは何か～	原田 薫
	⑩午後	ロールプレイ…講義内容をふまえたロールプレイ	
12 / 1 12 / 7 12 / 19	⑪ 17 : 30 ～ 20 : 00 19 日のみ 10 : 00～ 17 : 00	ケーススタディとロールプレイをとりいれた実習を繰り返す	原田 薫 加藤 治子 加藤 治子

（２）研修受講者

性暴力被害者救援センター日赤なごや活動希望者

応募者数：74 名

活動希望者：47 名

研修受講者：20 名

※全カリキュラム受講者 全カリキュラム受講者 20 名のうち、活動希望者は 17 名。

1. 受講者の職種：女性福祉相談員、看護師、フェミニストカウンセラーなど
2. 研修資料の印刷：100 部×12 回
3. 出前講座広報チラシの印刷：1,000 枚
4. アドボケーターの感想 まとめ
 - ・ 性暴力被害者にとって、救世主となる活動と感じた。多くの人が救われる事を願い活動していきたい。
 - ・ 性被害は様々な要素が絡み合った複雑な被害の形である。ひとつ、ひとつを紐解いていく必要がある。
 - ・ アドボケーターとして支援出来る事で、性暴力被害者がエンパワーできるようになりたい。すべての暴力をなくしたいと願い活動していきたい。

- ・ 性暴力被害と支援について多くを学び、気づくことができた。二次被害を防ぐための、心構えなど学ぶ事が多かった。



5. モデル事業実施後の課題（現状）

本事業の実施により、性暴力被害者救援センター日赤なごや開設にあたっての支援員を養成することができた。

今後は長期的な運営をしていくため支援員のシフト体制の確立が課題である

現在支援員は 20 名であるが、夜間は SANE 21 名をワンストップ専属で配置し、24 時間体制を実現した。以後も拠点病院の看護師を SANE 養成することで、24 時間体制は長期的に継続できる見通しである。

名古屋市：SANE 性暴力被害者支援看護職養成講座（相談支援機能の拡充・強化）

1. モデル事業実施前の課題

性犯罪・性暴力被害者への対応については、その性質から誰もができるものではなく、被害にあった人に寄り添い、心理的支援・医療支援・法的支援・生活支援を行うために相当程度の知識が必要である。

性暴力被害者救援センター日赤なごやを開設するにあたり、性暴力被害者を支援するための SANE 性暴力被害者支援看護職の確保が課題である。

2. モデル事業の内容

SANE 性暴力被害者支援看護職養成プログラムに、性暴力被害者救援センターを開設する名古屋第二赤十字病院の看護師が参加・受講し、SANE を 15 名養成する。

3. モデル事業実施による成果目標（1 の課題に対応するもの）

名古屋第二赤十字病院に SANE 性暴力被害者支援看護職が 15 名以上在職し、適切な支援を行うことができる。

4. 実施結果及び成果

名古屋第二赤十字病院の看護師 15 名が、SANE 性暴力被害者支援看護職養成プログラムを受講

- ① 10/10 性暴力被害者支援の基本理念と支援の在り方、性暴力被害者の理解
- ② 10/24 性暴力被害者の理解：その実態（社会・公衆衛生・医療）、被害の影響
- ③ 11/7 被害の影響、アセスメントの基礎
- ④ 11/21 支援の実際／アセスメント
- ⑤ 12/12 性暴力と法律、支援の実際
- ⑥ 1/9 支援の実際／アセスメント
- ⑦ 7/18 医療現場における性暴力被害者への急性期介入と支援の重要性
- ⑧ 7/26 心への影響：PTSD とそのアプローチ、子どもの性被害
- ⑨ 10/10 DV と性暴力（SAFER101 含む）
- ⑩ RIFCR SANE 受講年を含めて 2 年以内に、各地で実施されている研修を受講

SANE 受講修了前より、病院内でのケースに対する対応に変化があらわれた。実施後のアンケートでは、5 段階評価のうち、ほとんどが 4 から 5 の評価であり、満足度が高かった。

＜コメントのまとめ＞

- ・ 実施にはまだ不安があるが、がんばる。
- ・ 初めての性暴力に関する講義だが、事例や画像があってわかりやすかった。
- ・ 法が被害者を苦しめている。今度の法改正が被害者の立場に立っているとよい。
- ・ 名古屋での開催に感謝。継続開催を希望する。
- ・ 月 2 回は参加しやすい。
- ・ 講師に専門性があり多方面から学べて理解が深まった。
- ・ テキストを活用してもらうと一層よい。

5. モデル事業実施後の課題（現状）

本事業の実施により、性暴力被害者救援センター日赤なごや開設し運営していくための SANE 性暴力被害者支援看護職を養成することができた。

今後は、長期的な運営をしていくため無理のないシフト体制の確立が課題である。

名古屋市：相談対応（相談支援機能の拡充・強化）

1. モデル事業実施前の課題

性暴力被害者救援センター日赤なごやを開設するにあたり、支援体制を運営するための相談員・コーディネーターを配置する必要がある。

また、開設準備として開設前からコーディネーターを配置し体制を整備し、円滑なスタートにつな

げる。

2. モデル事業の内容

性暴力被害者救援センター日赤なごやの相談員・コーディネーターが、被害者に適切な支援を行うことができるよう配置する。

- ・ 相談員

1月5日～7日（3日間）9：00～17：00 2人シフト

1月8日～15日（8日間）24時間 6人シフト

この導入期間は、アドボケーター1～2名と SANE 2名で対応する。

（勤務体制）

SANE（性暴力被害者支援看護師）21名（第二日赤19名、外部2名）と、アドボケーター（支援者）20名で、シフトを組んで、24時間対応する。

3. モデル事業実施による成果目標（1の課題に対応するもの）

電話の対応は15分程度（最長30分）とし、基本的には来所していただいて対応する体制とする。

4. 実施結果及び成果

1月5日～1月15日期間中の実施結果

電話相談件数 17件

来所件数 6件（急性期対応 3件、過去の被害で来所相談対応 3件）

ケースの共有は、記録シート、「気づきノート」、引継ぎ時のミーティングによる。

5. モデル事業実施後の課題（現状）

相談する場所ができたこと自体は、利用者および関連機関から安心であると評価され、電話対応では、今まで誰にも話せなかったが、聞いてもらえただけで心が軽くなったとのフィードバックもあった。

しかし、やはり同行支援が必要な利用者がほとんどであり、今後は適切なアセスメント、支援コーディネート、同行支援で拠点病院から地域へつなぐ体制の整備が必要である。

名古屋市：リーフレット作成（広報啓発の推進・強化）

1. モデル事業実施前の課題

性暴力被害者救援センター日赤なごやの開設について当事者をはじめ支援に関わる人へ向けて広く周知するため、関係機関等へ配布するためのセンターの概要をまとめたリーフレットを作成する必要がある。

2. モデル事業の内容

性暴力被害者救援センター日赤なごやの概要をまとめたリーフレットを作成し、関係機関をはじめ各所で配架する。

- ・ リーフレットの内容

性暴力救援センター日赤なごや“なごみ”について

ホットラインの番号、センターの場所

なごみにできること、関係・協力機関の説明図

3. モデル事業実施による成果目標（1の課題に対応するもの）

関係機関において、リーフレットが配架され、当事者をはじめ支援に関わる人に性暴力被害者救援センター日赤なごやの存在を認識してもらい、支援が必要な際はセンターを紹介してもらえる状況を目指す。

4. 実施結果及び成果

性暴力被害者救援センター日赤なごやなごみの概要をまとめたリーフレットを作成し、関係機関へ配布した。

① 配布先

教育機関、医療機関（産婦人科、精神科、小児科）、県警及び各警察署、市町村
児童相談所、保健所、法テラス、弁護士、県産婦人科医会、県助産師会、県看護協会
愛知県赤十字支部、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、
女性と子どものライフケア研究所、性暴力救援センター日赤なごやなごみ など

② 配布開始日

2016年1月5日 リーフレット（A4三つ折り・両面カラー）7,000部作成

5. モデル事業実施後の課題（現状）

リーフレットを作成し、関係機関へ配布をしたが、性暴力被害者救援センター日赤なごや“なごみ”の周知については充分とは言えず、今後も周知に重点的に取り組んでいく必要がある。

リーフレット配布箇所の増加や、関連の会議や講演会の場で配布してもらうなど広報の効果的な方法について検討していく必要がある。

性暴力支援センター日赤なごや
“なごみ”について

○性暴力被害に対する相談・治療・支援活動などの、医療・司法・行政にまたがる総合支援を、緊急対応1か所（ワンストップ）で、被害発生から中長期・回復まで継続して提供します。

○心のサポートを受けながら医療支援を受け、自らが移動することなく他の必要な支援を受けることができます。

○地域にある関連機関からの相談も受け付けています。

協力機関
・名古屋第二赤十字病院
・女性と子どものライフケア研究所

交通機関のご利用について



名鉄・JR・名古屋駅より
地下鉄東山線（丸の内線）乗車、名鉄東山線（丸の内線）下車。
地下鉄東山線（丸の内線）乗車、名鉄東山線（丸の内線）下車。
名鉄・JR（金山）駅より
地下鉄東山線（丸の内線）乗車、名鉄東山線（丸の内線）下車。
【東山バスターミナル】より
バス（東山バス）乗車、名鉄東山線（丸の内線）下車。

性暴力支援センター日赤なごや なごみ
開 設 2016年1月5日
所 在 地 〒466-8550
名古屋市中区昭和区見附2-9

性暴力支援センター 日赤なごや なごみ

24時間ホットライン
☎ (052) 835-0753

なごみでできること

○支援員（アドボケート）・性暴力被害者支援専門看護師（SANE）が、24時間体制であなたに対応します。

○あなたをひとりにしません。

○あなたに寄り添い、あなたの意思とペースを尊重します。

○緊急医療対応は、SANE があなたをサポートします。

○心理的支援、医療支援、法的支援、生活支援など、あなたに必要な支援へつなぎます。

「あなたは、何も悪くありません」
ひとりで悩まずに
なごみにご相談下さい

24時間ホットライン
☎ (052) 835-0753

なごみの体制

地域との連携による病院拠点の支援モデル

